

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-143031
 (43)Date of publication of application : 03.06.1997

(51)Int.CI.

 A61K 7/02
 A61K 7/00
 A61K 7/027

(21)Application number : 07-305728

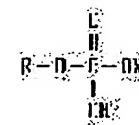
(71)Applicant : KAO CORP

(22)Date of filing : 24.11.1995

 (72)Inventor : ABE AKIHITO
 YAMAKI KAZUHIRO
 SUZUKI YUJI
(54) COSMETIC**(57)Abstract:**

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a cosmetic having water repellency and oil repellency and excellent in durability and stability by compounding a monoalkyl phosphate, a hydrophobic powder and a acrylic polymer.

SOLUTION: This cosmetic composition contains 0.05–5wt.% monoalkyl phosphate expressed by the formula (R is a 8–36C alkyl; X is an alkali metal, a basic amino acid residue or an alkanolamine residue), 0.5–30wt.% hydrophobic powder and 0.1–20wt.% acrylic polymer as active components. Further, a water-soluble high molecular compound (e.g. xanthan gum) and/or a fluoride-modified silicone is optionally compounded. It is preferable to use the powder whose surface is treated especially with a fluorine compound as the hydrophobic powder. As the acrylic polymer a polymer (e.g., Carbopol(R) 941) which forms gel by the neutralization with an alkaline agent is used. The composition can be formulated into a cosmetic such as a milky lotion, a cream, a liquid foundation or a tip stick.

**LEGAL STATUS**

[Date of request for examination] 29.08.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3432980

[Date of registration] 23.05.2003

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

This Page Blank (uspto)

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

This Page Blank (uspto)

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-143031

(43)公開日 平成9年(1997)6月3日

(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
A 61 K 7/02 7/00			A 61 K 7/02 7/00	P E B J N

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 11 頁) 最終頁に統く

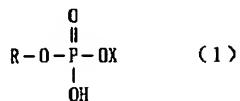
(21)出願番号	特願平7-305728	(71)出願人 000000918 花王株式会社 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号
(22)出願日	平成7年(1995)11月24日	(72)発明者 阿部 昭仁 東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社研究所内
		(72)発明者 山木 和広 東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社研究所内
		(72)発明者 鈴木 裕二 東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社研究所内
		(74)代理人 弁理士 有賀 三幸 (外3名)

(54)【発明の名称】 化粧料

(57)【要約】

【解決手段】 (A) 次の一般式(1)

【化1】



〔式中、Rは炭素数8~36のアルキル基を示し、Xはアルカリ金属、塩基性アミノ酸残基又はアルカノールアミン残基を示す〕で表わされるモノアルキルリン酸塩、(B)疎水性粉体及び(C)アクリル酸系ポリマーを含有する化粧料。

【効果】 撥水・撥油性、持続性及び安定性に優れる。

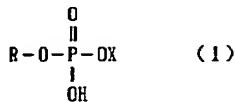
1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 次の成分(A)、(B)及び(C)：

(A)次の一般式(1)

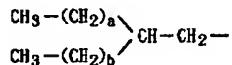
【化1】



〔式中、Rは炭素数8～36のアルキル基を示し、Xはアルカリ金属、塩基性アミノ酸残基又はアルカノールアミン残基を示す〕で表わされるモノアルキルリン酸塩、(B)疎水性粉体、(C)アクリル酸系ポリマーを含有することを特徴とする化粧料。

【請求項2】 (A)成分の一般式(1)で表わされるモノアルキルリン酸塩において、式中、Rで示される基が次の式

【化2】



〔式中、aは2～18の数を示し、bは2～14の数を示す〕で表わされるβ-分岐アルキル基である請求項1記載の化粧料。

【請求項3】 (B)成分の疎水性粉体が、フッ素化合物処理粉体である請求項1又は2記載の化粧料。

【請求項4】 水中油型乳化化粧料である請求項1～3のいずれか1項記載の化粧料。

【請求項5】 更に、水溶性高分子を含有する請求項1～4のいずれか1項記載の化粧料。

【請求項6】 更に、フッ素変性シリコーンを含有する請求項1～5のいずれか1項記載の化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、優れた撥水・撥油性を有し、持続性及び安定性に優れた化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】水中油型乳化化粧料は、連続相が水性成分为構成されているため、油性感が少なく使用感に優れる等の特徴を有している。しかしながら、従来の水中油型乳化化粧料は、油中水型乳化化粧料と比較して、持続性、撥水性に劣り、化粧くずれし易いという欠点があった。

【0003】このような欠点を解決するため、疎水性粉体を配合し、撥水性及び耐水性を付与することを目的とした化粧料が提案された(特開平4-124117号公報等)。しかしながら、疎水性粉体を乳化化粧料に多量に配合するには、乳化剤及び分散剤の使用量を増加すると共に系を増粘させなければならず、このようにすると感触が良好で安定な化粧料を得ることは困難であった。

【0004】

2

【発明が解決しようとする課題】従って本発明の目的は、このような問題点がなく、撥水・撥油性、持続性及び安定性に優れる化粧料を提供することにある。

【0005】

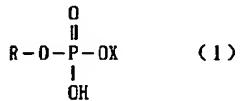
【課題を解決するための手段】斯かる実情に鑑み本発明者らは鋭意研究を行った結果、特定のモノアルキルリン酸塩、疎水性粉体及びアクリル酸系ポリマーを併用すれば、優れた撥水・撥油性を有し、かつ持続性及び安定性に優れた化粧料が得られることを見出し、本発明を完成了。

【0006】すなわち、本発明は、次の成分(A)、(B)及び(C)：

(A)次の一般式(1)

【0007】

【化3】



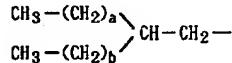
20 【0008】〔式中、Rは炭素数8～36のアルキル基を示し、Xはアルカリ金属、塩基性アミノ酸残基又はアルカノールアミン残基を示す〕で表わされるモノアルキルリン酸塩、(B)疎水性粉体、(C)アクリル酸系ポリマーを含有することを特徴とする化粧料を提供するものである。

【0009】

【発明の実施の形態】本発明で用いられる(A)成分のモノアルキルリン酸塩(1)は、公知の方法(特開昭61-17594号公報等)により得ることができる。一般式(1)中のRは炭素数8～36のアルキル基を示すが、具体的には、直鎖又は分岐鎖のオクチル、ノニル、デシル、ウンデシル、ドデシル、トリデシル、テトラデシル、ベンタデシル、ヘキサデシル、ヘプタデシル、オクタデシル、ノナデシル、イコシル、ヘニコシル、ドコシル、トリコシル、テトラコシル、ベンタコシル、ヘキサコシル、ヘプタコシル、オクタコシル、ノナコシル、トリアコンチル、ヘントリアコンチル、ドトリアコンチル、トリトリニアコンチル、テトラトリニアコンチル、ベンタトリニアコンチル、ヘキサトリニアコンチル基が挙げられる。これらのうち、次の一般式

【0010】

【化4】



【0011】〔式中、aは2～18の数を示し、bは2～14の数を示す〕で表わされるβ-分岐アルキル基が好ましく、特に式中のa+bが10～18のものが好ましい。

50 【0012】一方、一般式(1)中、Xで示されるアル

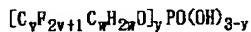
カリ金属としては、リチウム、ナトリウム、カリウム等が挙げられ、塩基性アミノ酸としては、アルギニン、オルニチン、リジン、オキシリジン等が挙げられる。また、アルカノールアミンとしては、炭素数2~3のヒドロキシアルキル基を有するものが好ましく、トリエタノールアミン、ジエタノールアミン、モノエタノールアミン等が挙げられる。これらのうち好ましいものとしては塩基性アミノ酸、特にアルギニンが挙げられる。

【0013】(A)成分のモノアルキルリン酸塩は、1種又は2種以上を組合せて用いることができ、全組成中に0.05~5重量%配合するのが好ましく、特に0.1~2重量%、更に0.5~1重量%配合すると、乳化安定性及び使用感に優るので好ましい。

【0014】本発明で用いられる(B)成分の疎水性粉体としては、通常の化粧料に用いられる疎水性粉体の他、例えば無機粉体及び有機粉体から選ばれる粉体の1種又は2種以上の表面を疎水化処理した疎水化処理粉体も含まれる。表面処理法としては、例えば粉体表面に油脂を吸着させたり、水酸基等の官能基を利用し、エステル化やエーテル化を起こさせ粉体を親油的にする油脂処理法、脂肪酸の亜鉛塩やマグネシウム塩を用いた金属石ケン処理法、ジメチルポリシロキサン又はメチル水素ボリシロキサンを用いたシリコーン処理法、バーフルオロアルキル基を有するフッ素化合物で処理する方法【ここでフッ素化合物とは、例えば次の一般式

【0015】

【化5】



【0016】〔式中、vは4~14の整数、wは1~12の整数、yは1~3の整数を示す〕で示されるポリフルオロアルキルリン酸（米国特許第3632744号参照）、フルオロアルキルジ（オキシエチル）アミンリン酸エステル（特開昭62-250074号公報参照）、バーフルオロアルキル基を有する樹脂（特開昭55-167209号公報参照）、四フッ化エチレン樹脂、バーフルオロアルコール、バーフルオロエポキシ化合物、スルホアミド型フルオロリン酸、バーフルオロ硫酸塩、バーフルオロカルボン酸塩、バーフルオロアルキルシラン（特開平2-218603号公報参照）等が適用されるがこれらに限られるものではない。】等が挙げられる。処理される母粉体としては、顔料、紫外線吸収剤等の水及び油に実質的に不溶な物質であれば特に制限されず、例えば酸化チタン、酸化鉄、群青、亜鉛華、酸化マグネシウム、酸化ジルコニア、マイカ、セリサイト、タルク、シリカ、カオリין、水酸化クロム、カーボンブラック等の無機顔料、ナイロンパウダー、ポリメチルメタクリレート、ステレン-ジビニルベンゼン共重合体、ポリエチレン粉末等の有機粉体及び有機色素等が挙げられる。

【0017】上記の疎水性粉体のうち、特にフッ素化合

物で表面処理した粉体を用いることが、撥水・撥油性及び持続性の点において好ましい。

【0018】これらの疎水性粉体は、1種又は2種以上を組合せて用いることができ、全組成中に0.5~30重量%、特に1~20重量%配合するのが好ましい。

【0019】また、本発明で用いられる(C)成分のアクリル酸系ポリマーは、アルカリ剤で中和することによってゲルを形成するものである。従ってアクリル酸系ポリマーはアルカリ剤で中和することによってゲルを形成するものであれば特に限定されず、一般に水溶性アルカリ増粘型ポリマーと称せられるものが用いられる。このようなアクリル酸系ポリマーとしては、例えばB.F.グットリッヂ社（B.F.Goodrich Company）から市販されているカーボポール（Carbopol）907、910、934、934-P、940、941、954、980、981、1342、1382、2984、5984等やペムラン（Pemulen）TR-1、TR-2等、リボ社（Lipo Chemicals Inc.）から市販されているハイバン（Hypam）SA-100H、SR-150H、SS-201、

QT-100等、住友精化社から市販されているアクベック（AQUPEC）HV-501、HV-504、HV-505等が挙げられる。これらのうち、特に好ましいアクリル酸系ポリマーとしては、カーボポール941、1342；ペムランTR-1、TR-2が挙げられる。

【0020】本発明の化粧料におけるアクリル酸系ポリマーは1種又は2種以上を組合せて用いることができその配合量は、ポリマーの種類等により異なり適宜決定すればよいが、全組成中に0.1~20重量%、特に0.2~1重量%、更に0.2~0.5重量%配合するのが好ましい。

【0021】アクリル酸系ポリマーを中和しゲル化するアルカリ剤としては、例えば水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、水酸化アンモニウム等の無機塩基及びトリエタノールアミン、L-アルギニン等の有機塩基が挙げられる。

【0022】また、本発明の化粧料には、必要により水溶性高分子を配合することができ、乳化安定性及び感触が更に向上的ので好ましい。ここで用いられる水溶性高分子としては、通常の化粧料等に用いられるものであれば特に制限されず、例えばガーガム、クインシード、カラギーナン、ローカストビーンガム、アラビアガム、トラガカント、ベクチン、マンナン、デンブン、アルギン酸ナトリウム、ヒアルロン酸ナトリウム、キサンタンガム、ブルランデキストラン、カードラン、コラーゲン、ケラチン、カゼイン、アルブミン、ゼラチン、コンドロイチン硫酸、キチン、カチオン化セルロース、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロビルセルロース、ヒドロキシプロビルメチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロビルトリメチルアノニウムクロリドエーテル、カルボキシメチルセルロ

40

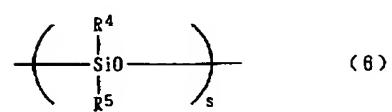
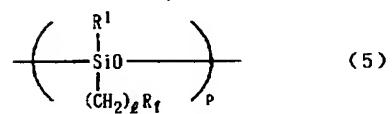
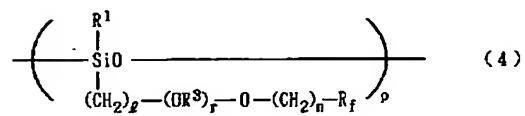
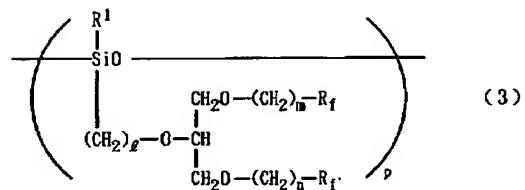
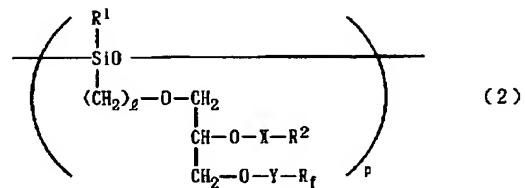
ース、デキストラン硫酸、カルボキシメチルキチン、可溶性デンプン、カルボキシメチルデンプン、アルギン酸プロビレングリコール、ポリビニルアルコール、ポリビニルビロリドン、ポリアクリル酸ナトリウム、ポリビニルメチルエーテル、ポリエチレンジグリコール等が挙げられる。就中特に好ましい水溶性高分子としては、キサンタンガム、ヒアルロン酸ナトリウム、ヒドロキシエチセルロース等が挙げられる。

【0023】これらの水溶性高分子は1種又は2種以上を組合させて用いることができ、全組成中に0.01～5.0重量%配合するのが好ましく、特に0.05～3.0重量%、更に0.05～0.3重量%が好ましい。

【0024】また、本発明の化粧料には、必要によりフッ素変性シリコーンを配合することができ、撥油性及び持続性が更に向上的るので好ましい。ここで用いられるフッ素変性シリコーンとしては、例えば下記一般式(2)～(5)で表わされる構造単位の1以上と、下記一般式(6)で表わされる構造単位とを有するものを挙げることができる。

【0025】

【化6】



【0026】[式中、R_t及びR_fは、同一又は異なっていてもよく、炭素数1～20の直鎖若しくは分岐鎖のバーフルオロアルキル基又は次式：H(CF₂)_t-(tは1～20の整数を示す)で表わされるω-H-バーフルオロアルキル基を示し；R¹、R²及びR³は、同一又は異なっていてもよく、炭素数1～20の直鎖若しくは分岐鎖の脂肪族炭化水素基又は炭素数5～10の脂環式若しくは芳香族炭化水素基を示し；R⁴は、水素原子、炭素数1～20の直鎖若しくは分岐鎖の脂肪族炭化水素基、炭素数5～10の脂環式若しくは芳香族炭化水素基、炭素数1～20のバーフルオロアルキル基又は次式：H(CF₂)_s-(sは1～20の整数を示す)で表わされるω-H-バーフルオロアルキル基を示し；R⁵は、炭素数2～6の2価の炭化水素基を示し；X及びYは、単結合、-CO-又は炭素数1～6の2価の炭化水素基を示し；Iは2～16の数を示し、m及びnはそれぞれ1～16の数を示し、pは1～200の数を示し、rは0～5の数を示し、sは0～200の数を示す]

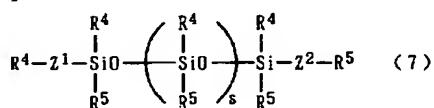
【0027】一般式(2)～(6)で表わされる構造単位において、R_t及びR_fで示されるバーフルオロアルキル基としては、直鎖及び分岐鎖のいずれのものも用いることができ、例えば、CF₃-、C₂F₅-、C₄F₉-、C₆F₁₃-、C₈F₁₇-、C₁₀F₂₁-、H(CF₂)₂-、H(CF₂)₄-、H(CF₂)₆-、H(CF₂)₈-、(C₃F₇)C(CF₃)₂-等を挙げることができる。また、H(CF₂)_t-におけるtとしては、6～20の整数が好ましい。

【0028】R¹、R²及びR³で示される炭化水素基としては、例えばメチル基、エチル基、プロピル基、ブチル基、ペンチル基、ヘキシル基、ヘプチル基、オクチル基、ノニル基、デシル基等の直鎖アルキル基；イソブロピル基、s-ブチル基、t-ブチル基、ネオペンチル基、1-エチルブロピル基、2-エチルヘキシル基等の分岐鎖アルキル基；シクロペンチル基、シクロヘキシル基等の環状アルキル基；フェニルナフチル基等の芳香族炭化水素基等を挙げができる。また、R⁴で示される2価の炭化水素基としては、炭素数2～4の直鎖又は分岐鎖のアルキレン基が好ましく、特にエチレン基、プロピレン基が好ましい。

【0029】このような構造単位を有するフッ素変性シリコーンとしては、例えば、下記一般式(7)：

【0030】

【化7】

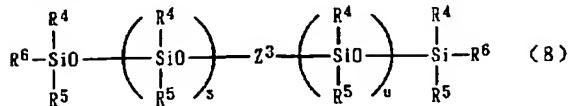


【0031】[式中、Z¹及びZ²は、少なくとも一方は一般式(2)、(3)、(4)及び(5)から選ばれる構造単位を示し、残余は単結合を示し、s、R¹及び

R'は前記と同じ意味を示す]で表わされるもの、又は下記一般式(8)：

[0032]

[化8]



[0033] [式中、Z³は、一般式(2)、(3)、(4)及び(5)から選ばれる構造単位を示し、R⁶は炭素数1～20の直鎖若しくは分岐鎖の脂肪族炭化水素基又は炭素数5～10の脂環式若しくは芳香族の炭化水素基を示し、uは0～200の数を示し、s、R¹及びR²は前記と同じ意味を示す]で表わされるものを挙げることができる。

[0034] 一般式(2)～(6)で表わされる構造単位及び一般式(7)、(8)で表わされるフッ素変性シリコーンにおける各式中の基としては、持続性及び使用性を考慮した場合、下記のものが好ましい。R₁及びR₂としては、炭素数6～20の直鎖若しくは分岐鎖のバーフルオロアルキル基又は次式；H(CF₂)_t-(tは6～20の整数を示す)で表わされるω-H-バーフルオロアルキル基が好ましい。R¹、R²及びR³としては、同一又は異なっていてもよく、炭素数1～4の直鎖又は分岐鎖の脂肪族炭化水素基が好ましい。R²としては、水素原子、炭素数6～20のバーフルオロアルキル基又は次式；H(CF₂)_t-(tは6～20の整数を示す)で表わされるω-H-バーフルオロアルキル基が好ましい。R³としては、炭素数2～4の2価の炭化水素基が好ましい。X及びYは、単結合、-CO-又は炭素数1～4の2価の炭化水素基が好ましく、1は2～10、特に2～5の数が好ましく、m及びnは、それぞれ2～10、特に1～6の数が好ましく、pは1～100、特に1～10の数が好ましく、rは0～20、特に0～5の数が好ましく、sは0～100、特に0～10の数が好ましい。なお、一般式(7)で表わされるフッ素変性シリコーンの構造単位の配列は、交互でもブロックでもランダムでもよい。

[0035] フッ素変性シリコーンの好ましい例としては、一般式(3)及び一般式(6)で表わされる構造単位を有する、特開平5-247214号公報に記載された重合度2～200のフッ素変性シリコーン、市販品である旭硝子社製のFSL-300、FSL-400、信越化学工業社製のX-22-819、X-22-820、X-22-821、X-22-822及びFL-100、東レダウコーニングシリコーン社製のFS1265等を挙げることができる。

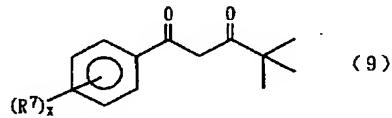
[0036] フッ素変性シリコーンは、1種又は2種以上を組み合わせて用いることができ、全組成中に0.01～9.9重量%配合するのが好ましく、特に0.01～

8.0重量%、更に0.1～7.0重量%配合すると、より持続性に優れ、使用感も良好であり好ましい。

[0037] 本発明の化粧料には、更に通常の化粧料に用いられるその他の成分を本発明の効果を損なわない範囲で適宜配合することができる。その他の成分としては、油性基剤(スクワラン、流動パラフィン、ワセリン等の炭化水素油、鯨ロウ、カルナウバロウ等のロウ類、ホホバ油、ミリスチン酸オクチルドデシル、ジオクタン酸ネオベンチルグリコール等のエステル油類、オリーブ油、マカデミアナッツ油等の天然動植物油脂、ジグリセライド、シリコーン油、フッ素油(FOMBLIN H C-04、FOMBLIN HC-25、FOMBLIN HC-R(モンテフロス社)、デムナムS-20、デムナムS-65、デムナムS-200(ダイキン工業社)等)等)；保湿剤(ソルビトール、キシリトール、グリセリン、マルチトール、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、1,4-ブチレングリコール、ビロリドンカルボン酸ナトリウム、乳酸、乳酸ナトリウム、ポリオキシプロピレン脂肪酸エステル、ポリエチレングリコール等)；紫外線吸収剤(バラアミノ安息香酸エチル、バラジメチルアミノ安息香酸オクチル[エスカロール(ESCALOL)507(VANDYK社)]、シノキサート、バラメトキシ桂皮酸オクチル[エスカロール557、バーソール(Parson)MCX(GIVAUDAN社)]、2-(2-ヒドロキシ-5-メチルフェニル)ベンゾトリアゾール、オキシベンゾン[エスカロール567、スペクトラソルブ(Spectra-Sorb)UV9(American Cyanamid社)]、ウロカニン酸、ウロカニン酸エチル、ベンゾフェノン、テトラヒドロキシベンゾフェノン[例えば、ユビナールD50(BASF社)]、4-t-ブチル-4'-メトキシベンゾイルメタン[バーンール1789]、特開平2-212579号公報、特開平3-188041号公報に記載の次の一般式(9)]

[0038]

[化9]

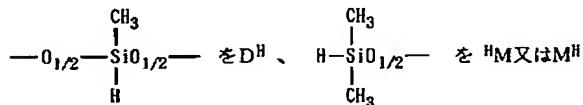
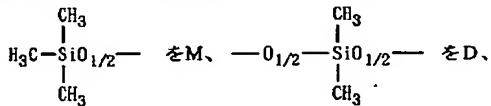


[0039] [式中、R⁷は水酸基、炭素数1～8のアルコキシ基、炭素数1～8のアルケニルオキシ基若しくは(ポリオキシアルキレン)オキシ基を示し、又は2個のRでα-メチレンジオキシ基を形成してもよく、xは1～3の整数を示す]で表わされるベンゾイルビナコロン誘導体等)；アルコール類、キレート剤等の抗酸化剤、pH調整剤(乳酸-乳酸ナトリウム、クエン酸-クエン酸ナトリウム等の緩衝剤)、防腐剤(尿素、メチルパラベン、エチルパラベン、プロピルパラベン、ブチルパラベン、安息香酸ナトリウム等)、増粘剤(塩化ナトリ

ウム、塩化カリウム等の電解質等)、色素、血行促進剤、冷感剤、制汗剤、殺菌剤、皮膚賦活剤、香料の他、美白剤(アルブチン、コウジ酸、アスコルビン酸及びその誘導体等)などの薬効成分、細胞間脂質(セラミド、セラミド類似構造物質等)などが挙げられる。

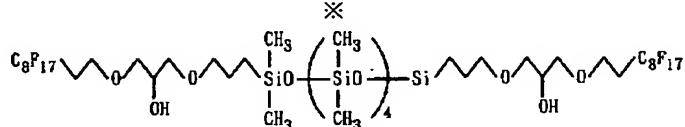
【0040】また、ここでいうセラミド類似構造物質としては、特開昭62-228048号公報に記載のアミド誘導体等が挙げられる。

【0041】本発明の化粧料は、常法に従って製造することができ、乳液、クリーム、軟膏、ファンデーション、口紅、アイシャドー等の化粧料の様々な剤型とすることができ、特に水中油型乳化化粧料として好適である。*



【0045】製造例1

【0046】



(A-1)

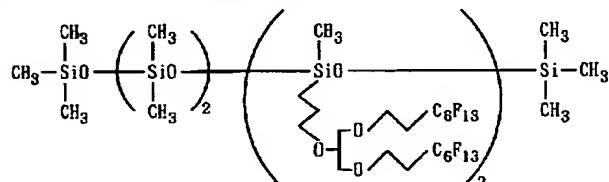
【0047】冷却管及び磁気攪拌子を備えた100mlの二つ口フラスコに、窒素雰囲気下、メチル水素ポリシロキサン("MD, M")11.0g(25.5mmol)、 $\text{C}_8\text{F}_{17}-\text{CH}_2-\text{CH}_2-\text{O}-\text{CH}_2-\text{CH}(\text{OH})-\text{CH}_2-\text{O}-\text{CH}_2-\text{CH}=\text{CH}_2$ 35.4g(61.3mmol)、塩化白金酸の2%イソプロピルアルコール溶液40μl(1.2×10⁻³mmol)を加え、60°Cで6時間攪拌し★

30★た。反応混合物を室温まで冷却し、未反応の化合物を減圧留去し、目的とする上記式で表わされるフッ素変性シリコーン(A-1)38.0gを無色透明の油状物として得た(収率94%)。

【0048】製造例2

【0049】

【化12】

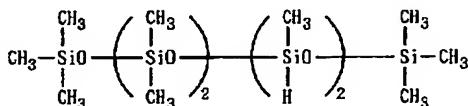


(A-2)

【0050】製造例1で用いた装置に、次式:

【0051】

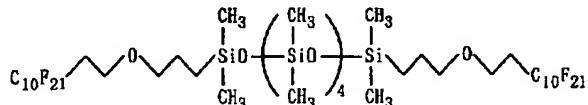
【化13】



【0052】で表わされるメチル水素ポリシロキサン50(東芝シリコーン社製)を6.0g(14.0mmol)、

11

$(C_6F_{11}-CH_2CH_2-O-CH_2)_2CH-O-CH_2$, $CH=CH_2$ 27.6 g (33.5 mmol)、塩化白金酸の2%イソプロピルアルコール溶液110.5 μ l (4.0 \times 10⁻³ mmol)を加え、製造例1と同様の方法により、目的とする上記式で表わされるフッ素変性シリ*



(A-3)

【0055】製造例1で用いた装置に、窒素雰囲気下、キシレン12ml、メチル水素ボリシロキサン("MD, M")12.0 g (27.8 mmol)、 $C_{10}F_{21}-CH_2CH_2-O-CH_2$, $CH=CH_2$ 40.4 g (66.8 mmol)、塩化白金酸の2%イソプロピルアルコール溶液10.1 μ l (3.1 \times 10⁻³ mmol)を加え、製造例1と同様の方法により、目的とする上記式で表わされるフッ素※

*コーン(A-2)23.2 gを無色透明の油状物として得た(収率80%)。

【0053】製造例3

【0054】

【化14】

(A-4)

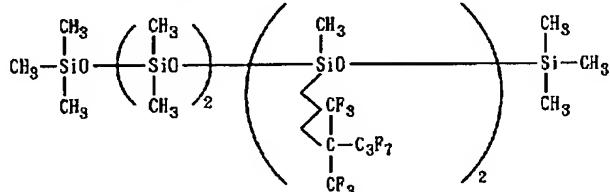
【0058】製造例1で用いた装置に、メチル水素ボリシロキサン(MD, D", M)(東芝シリコーン社製)を19.0 g (44.1 mmol)、 $C_{10}F_{21}-CH_2CH_2-O-CH_2$, $CH=CH_2$ 53.3 g (105.8 mmol)を仕込んだ。次に、フラスコ内の温度を80°Cに昇温したのち、塩化白金酸の2%イソプロピルアルコール溶液174.5 μ lを加え、5時間攪拌した。反応混合物を室温まで冷却したのち、ヘキサン50ml及び活性炭

★2. 2 gを加え、室温で1時間攪拌した。その後、活性炭を濾別し、溶媒を留去した。未反応の化合物を減圧留去し、目的とする上記式で表わされるフッ素変性シリコーン(A-4)49.4 gを無色透明の油状物として得た(収率78%)。

【0059】製造例5

【0060】

【化16】



(A-5)

【0061】製造例1で用いた装置に、メチル水素ボリシロキサン(MD, D", M)(東芝シリコーン社製)を25.0 g (58.0 mmol)、 $CH_2=CH-CH_2-C(F_3)_2$, C_6F_{14} 50.1 g (139.2 mmol)を仕込んだ。次に、フラスコ内の温度を80°Cに昇温したのち、塩化白金酸の2%イソプロピルアルコール溶液23.0.0 μ l (7.0 \times 10⁻³ mmol)を加え、5時間攪拌

した。以下、製造例4と同様にして、目的とする上記式で表わされるフッ素変性シリコーン(A-5)58.3 gを無色透明の油状物として得た(収率87%)。

【0062】製造例6

【0063】

【化17】

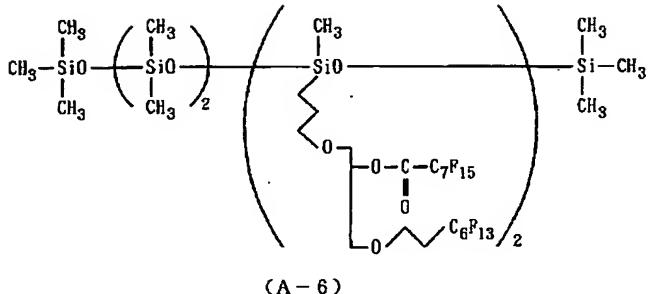
This Page Blank (uspto)



13

(8)

14



【0064】製造例1で用いた装置化、トルエン20m
l、メチル水素ボリシロキサン(MD_nD_mM)6.4g
(14.9mmol)、C₆F₁₃-CH₂CH₂-O-CH₂C
H(OCOC₂F₁₁)-CH₂-O-CH₂CH=CH₂
31.2g(35.6mmol)、塩化白金酸の2%イソブ
ロビルアルコール溶液58.9μl(0.89×10⁻³
mmol)を加え、製造例1と同様の方法により、目的とす
る上記式で表わされるフッ素変性シリコーン(A-6)
25.2gを無色透明の油状物として得た(収率78
%)。

【0065】実施例1

表5に示す組成の化粧料を常法により製造した。得られ
た化粧料について、撥水・撥油性、持続性及び安定性を
下記の評価方法により評価した。結果を表5に示す。

【0066】(評価方法)

(1) 撥水性：得られた化粧料を豚皮に2μl/cm²塗
布し、そこに水を滴下し、水滴のなす角度(接触角)を
以下の基準に従って評価した。

【0067】

【表1】

◎：水との接触角(θ)が80°以上。

○：水との接触角(θ)が60°～80°未満。

△：水との接触角(θ)が40°～60°未満。

×：水との接触角(θ)が40°未満。

【0068】(2) 撥油性：得られた化粧料を豚皮に2
μl/cm²塗布し、そこにスクワランを滴下し、スクワ
ラン滴のなす角度(接触角)を以下の基準に従って評価
した。

【0069】

【表2】

◎：スクワランとの接触角(θ)が60°以上。

○：スクワランとの接触角(θ)が40°～60°未
満。

△：スクワランとの接触角(θ)が20°～40°未
満。

×：スクワランとの接触角(θ)が20°未満。

【0070】(3) 持続性：得られた化粧料をヒト額に
2μl/cm²塗布し、7時間後に残存する2-エチルヘ
キシリ-p-メトキシシンナメートを定量し、その残存
率を以下の基準に従って評価した。

20 【0071】

【表3】

◎：2-エチルヘキシリ-p-メトキシシンナメートの
残存率が80%以上。

○：2-エチルヘキシリ-p-メトキシシンナメートの
残存率が70%～80%未満。

△：2-エチルヘキシリ-p-メトキシシンナメートの
残存率が60%～70%未満。

×：2-エチルヘキシリ-p-メトキシシンナメートの
残存率が60%未満。

30 【0072】(4) 安定性：得られた化粧料を50°Cで
1ヶ月保存した後、その状態を目視により、以下の基準
に従って評価した。

【0073】

【表4】

◎：状態に変化は認められない。

○：状態にやや変化が認められる。

△：状態に大きな変化が認められる。

×：分離が認められる。

【0074】

【表5】

成 分(重量%)	本 発 明 品			比 較 品		
	1	2	3	1	2	3
2-ヘキシルデシルリン酸-L-アルギニン塩	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	-
フッ素化合物処理酸化亜鉛 [*]	10.0	10.0	10.0	-	10.0	10.0
アクリル酸系ポリマー(ペムラン TR-2)	0.2	0.2	0.2	-	-	0.2
アクリル酸系ポリマー(カーボボール 941)	0.2	0.2	0.2	-	-	0.2
キサンタンガム	0.1	0.1	-	-	-	-
製造例1のフッ素変性シリコーン(A-1)	10.0	-	-	-	-	-
2-エチルヘキシル-p-メトキシシンナメート	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
4-メトキシ-4'-t-ブチルジベンゾイルメタン	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
ジメチルボリシクロロシロキサン	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
スクワラン	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
セタノール	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4
ステアリルアルコール	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6
ブチルパラベン	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
メチルパラベン	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
グリセリン	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
L-アルギニン	0.4	0.4	0.4	-	-	0.4
香料	微量	微量	微量	微量	微量	微量
精製水	バランス	バランス	バランス	バランス	バランス	バランス
撥水性	◎	○	○	×	○	○
撥油性	◎	○	○	△	○	○
持続性	◎	○	○	×	○	○
安定性	◎	◎	○	△	×	×

*:酸化亜鉛15.0gを丸底フラスコに入れ、60℃に加熱する。これに(C₆F₁₃CH₂CH₂O)₂P(OH)P(OH)Cl₂ 1.3gとイソプロピルエーテル15.0gを溶解加熱(50℃)したものを加え、60℃で4時間混合する。その後5.6~60℃でイソプロピルエーテルを減圧留去し、乾燥して得たもの。

【0075】表5から明らかなように、本発明品は比較品に比べ、撥水・撥油性、持続性及び安定性において良好な結果を示した。

* 【0076】実施例2(乳液)
下記組成の乳液を常法に従って調製した。

* 【表6】

(成分)	(重量%)
2-ヘキシルデシルリン酸L-アルギニン塩	0.2
フッ素化合物処理酸化チタン [*]	10.0
アクリル酸系ポリマー(ペムラン TR-2)	0.1
アクリル酸系ポリマー(カーボボール 941)	0.1
ヒアルロン酸	0.1
製造例2のフッ素変性シリコーン(A-2)	10.0
ジメチルボリシクロロシロキサン	20.0
2-エチルヘキシル-p-メトキシシンナメート	3.0
4-メトキシ-4'-t-ブチルジベンゾイルメタン	3.0
ブチルパラベン	0.1
メチルパラベン	0.1
エタノール	5.0
グリセリン	2.0
1,3-ブチレングリコール	2.0
L-アルギニン	0.2
香料	微量
精製水	バランス

*1:酸化亜鉛を酸化チタンに変更する以外は実施例1のフッ素化合物処理酸化亜鉛と同様にして製造したもの

【0077】得られた乳液は撥水・撥油性、持続性及び安定性において良好な結果を示した。

* 【表7】

【0078】実施例3(クリーム)

※

(成分)	(重量%)
2-ヘキシルデシルリン酸L-アルギニン塩	0.2
フッ素化合物処理酸化チタン [*]	10.0

17	18
アクリル酸系ポリマー（ペムラン TR-1）	0.2
アクリル酸系ポリマー（カーボボール 1342）	0.2
キサンタンガム	0.1
カルボキシメチルセルロース	0.1
製造例3のフッ素変性シリコーン（A-3）	10.0
ジメチルボリシクロシロキサン	20.0
2-エチルヘキシル-p-メトキシンメート	3.0
4-メトキシ-4'-t-ブチルジベンゾイルメタン	3.0
ブチルバラベン	0.1
メチルバラベン	0.1
エタノール	5.0
グリセリン	5.0
1, 3-ブチレングリコール	2.0
L-アルギニン	0.4
香料	微量
精製水	バランス

*1: 実施例2と同じもの

【0079】得られたクリームは撥水・撥油性、持続性
及び安定性において良好な結果を示した。 *下記組成のリキッドファンデーションを常法に従って調
製した。

【0080】実施例4（リキッドファンデーション） *20 【表8】

(成分)	(重量%)
ジセチルリン酸L-アルギニン塩	0.2
フッ素化合物処理酸化チタン（実施例2と同じもの）	6.0
フッ素化合物処理セリサイト ^{*2}	8.0
フッ素化合物処理酸化鉄（赤、黄、黒） ^{*3}	1.0
アクリル酸系ポリマー（ペムラン TR-2）	0.1
アクリル酸系ポリマー（カーボボール 941）	0.1
キサンタンガム	0.1
ヒドロキシエチルセルロース	0.1
製造例4のフッ素変性シリコーン（A-4）	10.0
ジメチルボリシクロシロキサン	20.0
スクワラン	5.0
2-エチルヘキシル-p-メトキシンメート	3.0
4-メトキシ-4'-t-ブチルジベンゾイルメタン	3.0
ブチルバラベン	0.1
メチルバラベン	0.1
エタノール	5.0
リセリン	2.0
1, 3-ブチレングリコール	2.0
L-アルギニン	0.2
香料	微量
精製水	バランス

*2: 酸化亜鉛をセリサイトに変更する以外は実施例1のフッ素化合物処理酸化
亜鉛と同様にして製造したもの

*3: 酸化亜鉛を酸化鉄（赤、黄、黒）に変更する以外は実施例1のフッ素化合
物処理酸化亜鉛と同様にして製造したもの

【0081】得られたリキッドファンデーションは撥水 *【0082】実施例5（エアゾール化粧料）
・撥油性、持続性及び安定性において良好な結果を示し 下記組成のエアゾール化粧料を常法に従って調製した。
た。 ※ 【表9】

(成分)	(重量%)
------	-------

19	20
ジラウリルリン酸L-アルギニン塩	0.1
フッ素化合物処理タルク**	5.0
アクリル酸系ポリマー(ベムラン TR-2)	0.1
カルボキシメチルセルロース	0.1
製造例5のフッ素変性シリコーン(A-5)	5.0
2-エチルヘキシリ-p-メトキシシンナメート	3.0
4-メトキシ-4'-t-ブチルジベンゾイルメタン	3.0
ブチルバラベン	0.1
メチルバラベン	0.1
グリセリン	1.0
L-アルギニン	0.1
香料	微量
LPG、ジメチルエーテル混合ガス(8/2)	7.0
精製水	バランス

*4: 酸化亜鉛をタルクに変更する以外は実施例1のフッ素化合物処理酸化亜鉛と同様にして製造したもの

【0083】得られたエアゾール化粧料は撥水・撥油性、持続性及び安定性において良好な結果を示した。

*下記組成の口紅を常法に従って調製した。

【表10】

【0084】実施例6(口紅) *

(成分)	(重量%)
2-オクタラウリルリン酸L-アルギニン塩	0.1
フッ素化合物処理赤色201号**	2.0
フッ素化合物処理赤色202号**	4.0
フッ素化合物処理黄色4号A1レーキ**	2.0
フッ素化合物処理酸化チタン**	2.0
アクリル酸系ポリマー(ベムラン TR-1)	1.0
キサンタンガム	1.0
製造例6のフッ素変性シリコーン(A-6)	32.9
ポリエチレンワックス	15.0
ジカブリン酸ネオベンチルグリコール	10.0
スクワラン	15.0
水添ラノリン	15.0

*5: 酸化亜鉛を赤色201号に変更する以外は実施例1のフッ素化合物処理酸化亜鉛と同様にして製造したもの

*6: 酸化亜鉛を赤色202号に変更する以外は実施例1のフッ素化合物処理酸化亜鉛と同様にして製造したもの

*7: 酸化亜鉛を黄色4号A1レーキに変更する以外は実施例1のフッ素化合物処理酸化亜鉛と同様にして製造したもの

*1: 実施例2と同じもの

【0085】得られた口紅は撥水・撥油性、持続性及び※40※安定性において良好な結果を示した。

フロントページの続き

(51)Int.Cl.*

識別記号 庁内整理番号

A 6 1 K 7/027

F I

A 6 1 K 7/027

技術表示箇所

This Page Blank (uspto)